

国立国語研究所学術情報リポジトリ

日本国語の誕生と古事記： 改新期の言語統一事業の視点から

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2025-10-08 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 川西, 孝男 メールアドレス: 所属: 京都大学
URL	https://repository.ninjal.ac.jp/records/2000579

日本国語の誕生と古事記

—改新时期の言語統一事業の視点から—

国立国語研究所主催：Evidence-based Linguistics Workshop
2025

2025年9月16日ポスター研究発表 於：当研究所内
川西孝男（京都大学）

目次（構成）

1	ポスター発表標題	9	⑤記紀の文体（冒頭）
2	目次（構成）	10	⑥古事記の読み方指示
3	アブストラクト	書き	
4	謝辞	11	⑦国語統一事業のプロ
5	①日本周辺と海流	セスⅠ	
6	②標準語と方言	12	⑧国語統一事業のプロ
7	③大化の改新と中央 集権	セスⅡ	
8	④改新と「言語政策」	13	結語Ⅰ
		14	結語Ⅱ
		15	参考文献
		16	参考：太安万侶

Abst.

- らに考古の
 かも、生へ
 話と釈、誕
 神と解、の
 本紀の論の
 日書紀本語
 、本記。国
 れ日は本
 さたにい日
 としらで、
 書成さんて、
 史完、呼し
 のに遷をと
 古後変心割
 最、的関役
 本り治もな
 日溯政代要
 るにや現重
 す史ンどの
 存歴マなつ
 現の口見一
 、家の発う
 は、皇世の
 記天創上の
 事代本学記
 古古日古事
 寄
- 統つ。し日書
 家よたとを本
 国にし書記基
 の制指文事は
 本体目公古
 日権をやがる
 た集処語権あ
 え央対用政点
 迎中の公央発
 をたへ、中出
 成し勢でたの
 完と情体つ語
 て心際主か国
 っ中国がな準
 よをの言ら標
 に皇ア方なち
 武天ジのまわ
 天、ア地まな
 、はく各もす
 し新巻本用業
 導改り日使事
 主化取来の一
 が大を従語統
 らる本に国語
 智た日この言
 天一てこて本
 及
- 夕本に
 カ日響
 、の影
 な代た
 か現え
 ら、与
 ひかへ
 のほ識
 世た認
 後した
 りをい
 な出と
 と創化
 記の文
 世語想
 創国思
 のなの
 語た人
 国新本
 本む日
 日含る
 がをじ
 記等通
 事ナに
 古力語
 及

謝辞

本研究ポスター発表は、

- 国立国語研究所における共同利用型共同研究
（B）「日本における標準語と方言の歴史地理学的研究」
- 京都大学人文科学研究所における共同研究「中国社会経済制度の再定位」（現代中国研究センター）
- 東京大学大気海洋研究所における学際連携研究
（特定共同研究課題番号：JURCAOSIRS25-01）

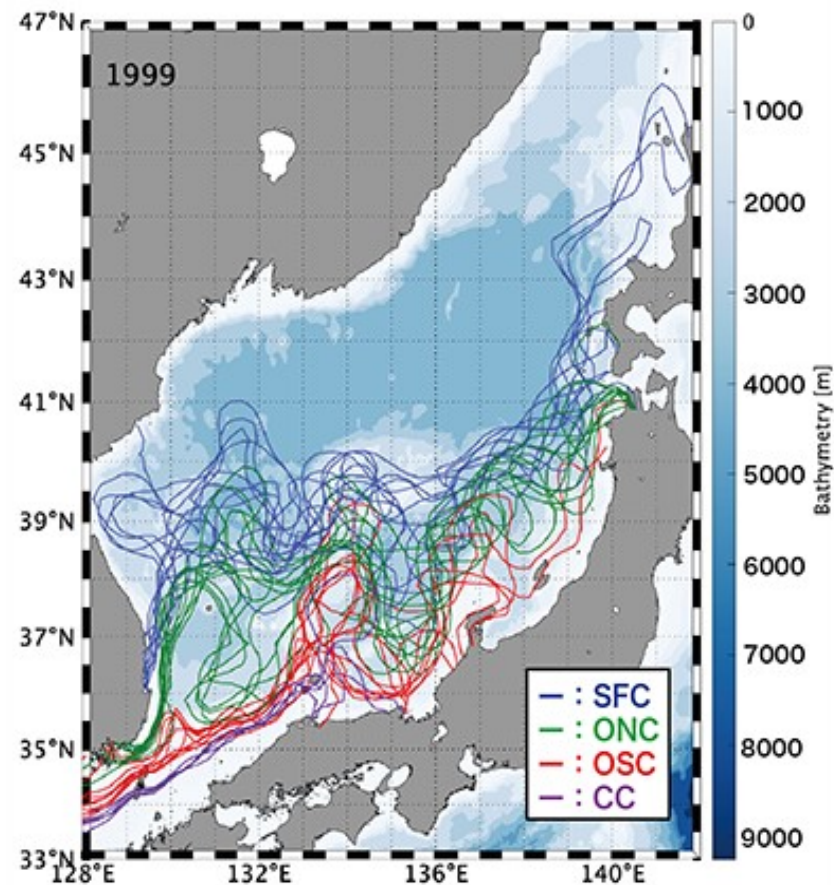
の研究成果の一部を使用している。

①日本周辺と海流



典拠：日本海学推進機構
(一部筆者編集)

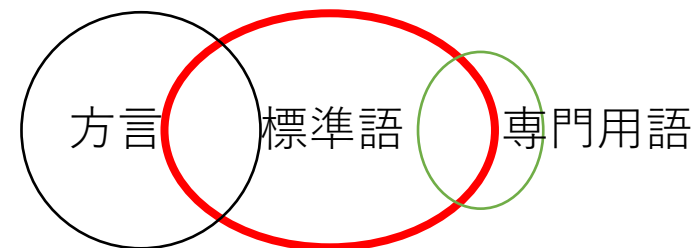
<https://www.nihonkaigaku.org/kids/relation/marukibune.html>



東京大学大気海洋研究所

<https://www.aori.u-tokyo.ac.jp/research/topics/2021/20210608.html>

②標準語と方言



- **標準語（国語）**
- その国（日本）領土内で用いられる、意思疎通可能な言語そして文字→全土で幅広く用いられ、政府から国民にまで行き渡ったもの（話し言葉、書き言葉がほぼ同一）
- 律令などの法律専門用語を駆使した文字、その領域にしか通じない言語・文字を除く
- **方言**
- 標準語以外の一定の地域、集団に伝わる言語・文字

③大化改新と中央集権

改新以前

- 日本人は話し言葉で意思疎通しな
ており、文章（文字）を持たな
かった。→中国周辺民族も同様
- →中国から漢字（漢文）が伝来。
- 5世紀頃までには漢文が中央政権
で用いられ、公用文となる。6世
紀頃に宮廷、歌人たちがよって和記
（話し言葉）がたがたに各地に記
録され、当地で交流し、和歌を作
った。
- →当時公用語は首都が置かれた関
西の東方言が公用語として置かれた地
方方言が公用語の影響を受ける。

改新以降

- 天皇中心の中央集権体制→孝
徳天皇（初めての元号「大
化」を使用）
- 改新の詔（大化2、646年）
- ①公地公民制
- ②国郡制
- ③班田収授法
- ④租庸調（税制）
- →日本語の統一は？
- →公用語→「日本」国語の統
一事業の視点→この視点が欠
落していた。

④改新と「言語政策」

- 日本国語 = 「日本」「国語」
- 「日本」（ニホン、ひのもと）の初現
- 天武天皇・・・「日本」を国号とした最初の天皇。
- （生年不明 - 686）第40代天皇（在位:673- 686年）
- 「古事記」（コジキ、ふることふみ）
- 673年、天武天皇が即位し、『天皇記』や『国記』に代わる国史の編纂を命じた。その際、28歳で高い識字能力と記憶力を持つ稗田阿礼に『帝紀』や『本辞』などの文献を「誦習」させた。その後、711年の元明天皇の命を受け、太安万侶が阿礼の誦習していたものを編纂し712年に『古事記』を完成させた。
- →国史の完成とともに日本国語の標準化を図った。→宣命体

⑤記紀の文体（冒頭）

- 古事記の冒頭
- 天地初發之時於高天原成神名天之御中主神**
 - 1. 天地初めに発こりし時、高天原に神成りまし、名づけて天之御中主の神
 - 2. 天地初めて發けし時、高天原に成れる神の名、天之御中主神 **と日本の語り言葉的要素が強い。**
- 日本書紀冒頭
- 古天地未剖陰陽不分渾沌如鷄子溟滓而含牙**
 - 「古、天地いまだ剖れず、陰陽分れざりし。渾沌れたること鷄子のごとくして、溟滓にして牙を含めり」と成に**典型的な漢語調**である。中国・朝鮮の日本滞在者が作成に関わったか。

天地初發之時。於高天原成神名。天之御中主神。阿訓高下天此云次高御產巢日

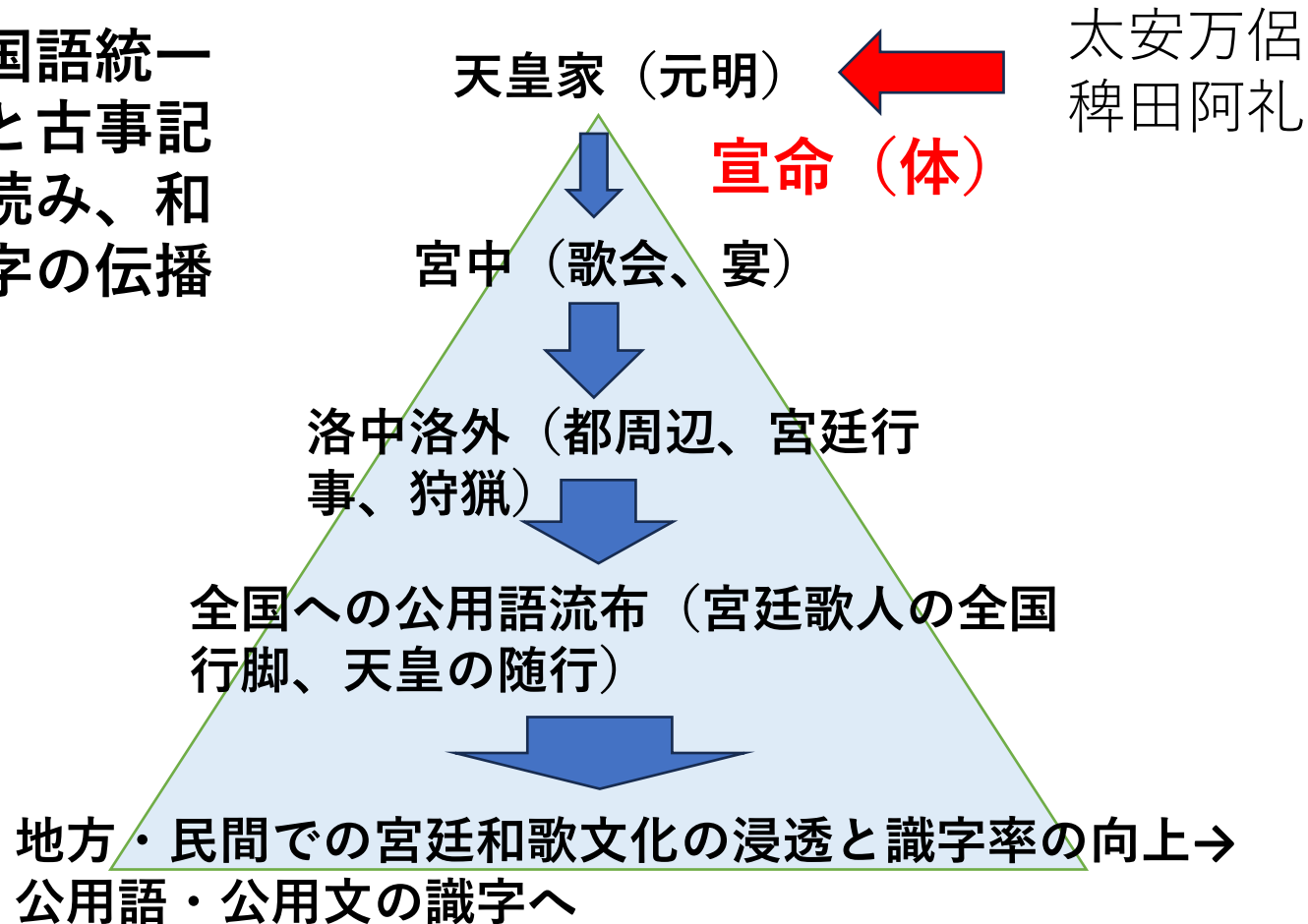
川西

訓高下天云
阿麻下效此

- 続けて、**訓高下天云阿麻下効此**の**(二段の)注**がある。
- 高の下なる天を訓み、阿麻と云ふ。
下此に効ふ。
- こは「高つみえ」のねな下のにさの阿いと天麻（天麻）とい（あ）うこ
漢字）に（は）はと「高つみえ」のねな下のにさの阿いと天麻（天麻）とい（あ）うこ
まれの→の天標書『古事記』纂のドさ読ラいた書ン指本のし初基て
のの本の『古事記』纂のドさ読ラいた書ン指本のし初基て
- 「天」の重か要性→「天」（高）
天た「天」の重か要性→「天」（高）

⑦国語統一事業のプロセス I

日本国語統一
事業と古事記
の訓読み、和
化漢字の伝播



⑧国語統一事業のプロセスⅡ

FEEDBACK

萬葉集とひらかな、
カタカナ創出のプロセス

天皇



ひらかな、カタカナの標準化・公用化

宮中（選考）

洛中洛外（都ことばの変容）

地方方言の変容・都言葉（公用語）の変容

民間での和歌創作（方言そして公用語の変容と受容もしくは排除）→（日本国語の識字率の向上）

結語 I

日本語統一の時系列的方向性

時代

飛鳥時代

奈良時代

平安時代

和化漢文（万葉仮名）訓読み → ひらかな・カタカナの創出

系列1 日本語系

古事記

萬葉集・風土記

古今和歌集

物語（**公用語・公用文へ**）

大化の改新

書紀の訓読奨励

系列2 中国語系

日本書紀 → 続日本紀など

（**公用文は和化漢文へ、
→明治期まで**）

結語Ⅱ

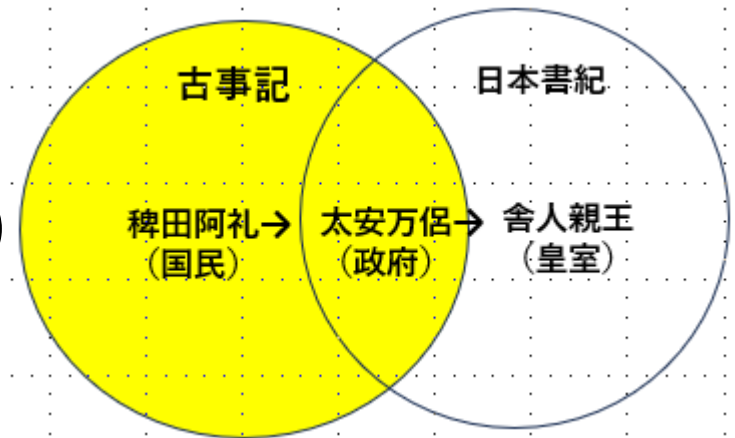
- 古事記の太安万侶らによって漢語（漢音、漢字）が日本人の古語（話し言葉）と一体化され、日本国語が書き言葉として記される日本国による一定の指針が示される。（万葉仮名による読み方や書き方が定まり始め、宣命体となる）
- これは中央と地方による交流を通じて、平安時代にはひらかな、カタカナが創造（発明）され、古語がアジア社会の中心言語である漢語（漢音・漢字）に対応したものとなった。
- この一連の国語標準化政策は日本人の識字率向上や国際文化への認識を高めた。

参考文献

- 倉野憲司/武田祐吉校注『古事記 祝詞』、日本古典文学大系、1958
- 坂本太郎ほか校注『日本書記 上下』、日本古典文学大系、1993
- 小島憲之, 木下正俊, 佐竹昭広校注・訳『萬葉集』、日本古典文学全集、1971
- 秋本吉郎校注『風土記』、日本古典文学大系、1993
- 本居宣長撰、倉野憲司校訂『古事記傳1-4』、岩波書店、1940-
- 神野志隆光『漢字テキストとしての古事記』、東京大学出版会、2007
- 小谷博泰『木簡・金石文と記紀の研究』和泉書院、2006
- 沖森卓也『日本語全史』、ちくま新書、2017

参考：太安万侶

(不明～養老7年7月6日 = **723年**8月11日)



- 和銅4年(711年)9月に天皇から稗田阿礼の『古事記』を編纂するよ命じられ、翌年1月に『古事記』として天皇に献上(古事記・序)。

- 太氏(多氏)一族の末裔・多人長は、安万侶が養老4年『日本書紀』の編纂にも加わったとした[弘仁私記序]。

- 1979年(昭和54年)1月22日、奈良県立橿原考古学研究所は、奈良市此瀬町の茶畑から安万侶の墓が発見され、火葬された骨や真珠を納めた木櫃と墓誌が出土したと発表。
- 『左京四條四坊從四位下
勲五等太朝臣安万侶以
癸亥年七月六日卒之養老
七年十二月十五日乙巳』

<完>